

平成 19 年度 佐賀県こどもUD作品コンクール 入賞作品集



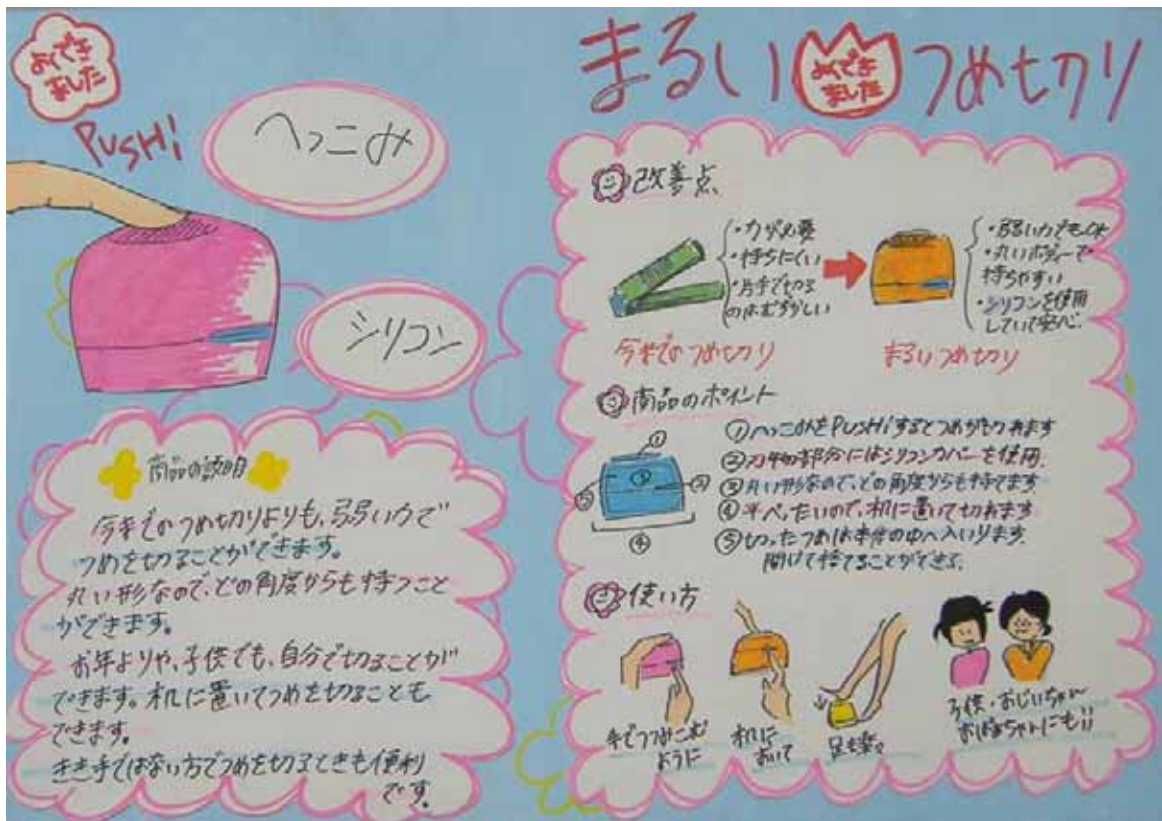
入賞者一覧

区分	部門	学校	学年	氏名	頁
大賞 (知事賞)	アイデア作品	佐賀市立鍋島中学校	2年	坂口 美月	1
	かべ新聞	神崎市立脊振中学校	全	平川 貴啓 芦原 祐貴 佐藤 奈々美 芦原 翔太	2
	作文	佐賀清和中学校	2年	真名子 優香	3
優秀賞	アイデア作品	佐賀市立鍋島中学校	1年	山田 千遥	4
		佐賀市立鍋島中学校	2年	伊東 優菜	5
		佐賀市立鍋島中学校	2・1年	木下 あゆみ 宮木 卓麻	6
		佐賀市立鍋島中学校	2年	津山 郁美	7
	かべ新聞	小城市立三日月小学校	5年	石橋 幹太	8
		小城市立三日月小学校	4年	松尾 知咲	9
	作文	佐賀清和中学校	1年	中島 由貴	10
		佐賀清和中学校	2年	上赤 菜都美	11
		佐賀清和中学校	2年	松野 優子	12

知事賞

「まるいつめ切り」

佐賀市立鍋島中学校 2年:坂口 美月



知事賞

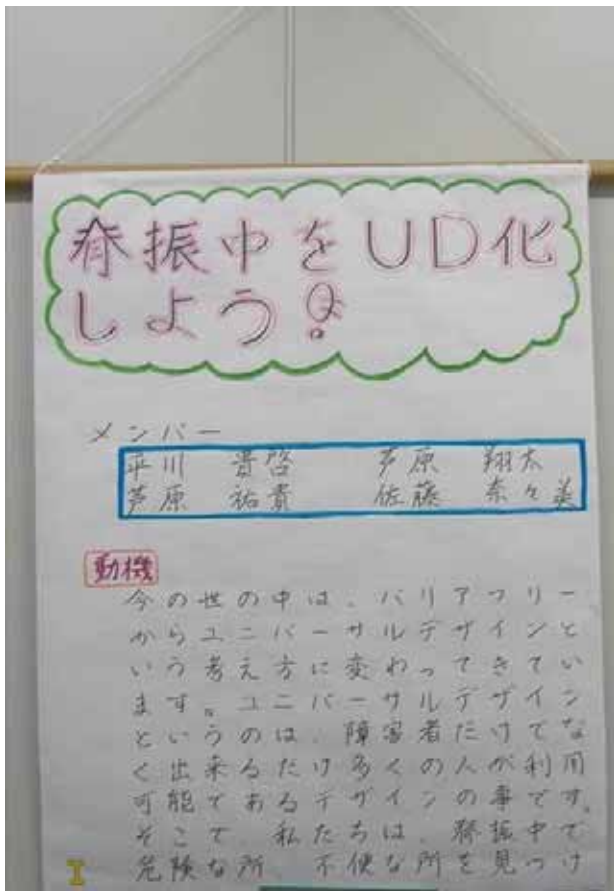
「脊振中をUD化しよう」

神崎市立脊振中学校 全学年:平川 貴啓

芦原 祐貴

佐藤 奈々美

芦原 翔太



知事賞

「誰もが望む本物のUDの在り方」

佐賀清和中学校 2年:真名子 優香

「UDって、何て素晴らしいんだろう。」これは、私がUDに対してつくづく思っていたことです。特に、祖母と一緒に外出した時、印象に残るものが数多くありました。例えば、手すりやスロープです。足腰が弱い祖母にとって、手すりは心強くて大切な支えとなり、スロープは足にかかる大きな負担を和らげてくれます。また、祖母は時々車いすに乗ることもありました。そんな時も、助けになったのがUDでした。例えば、トイレを挙げてみると、大きなスペースや下向き斜めの鏡などがあります。それらは動きづらさや狭さの不安から解放し、心地よい時間を与えてくれました。これらのように私の経験を通して、UDの便利さに感心するばかりです。だから、視覚障害者の方、耳の不自由な方たちも音の鳴る横断歩道、点字や点字ブロックなどによって、ずいぶんと楽に町へ出ているのだ、と考えていました。しかし、それは私の単なる勘違いだったのです。

私は、視覚障害者である三宮麻由子さんの著書『目を閉じて心を開いて』を読み、その時やっと気が付いたのです。UDは全ての人間がハッピーになり暮らしやすいものでなければならないことに。三宮さんの考えから車いすや高齢者対応と思えるバリアフリー、エレベーターに点字があるだけでは便利だと言えないこと、駅のプラットホームに設置されてある点字に対して本当に持つ意味を放送しないこと、利用者が平気で上に物を置いたり乗ったりすることを、私たちに指摘されたような気がしました。特に、エレベーターについての話には、とても驚きました。私の祖母のように車いすを利用する人や、それを押す人にとって、エレベーターは中も広く入り口も平らで、とても便利です。それに、視覚障害者の方たちにとっても、点字の表示があり、困ることはない決めつけていました。でも、実際の視覚障害者の方の「音声の鳴るものでないと不安だ」という、本当の気持ちを知り、他の人の立場をちっとも真剣に考えられなかった自分が恥ずかしくなりました。

私は今回、UDについて考え、最も言いたいことが一つあります。それは、いろいろな人たちの立場に立つことの大切さです。すると、良い点もたくさん見えてきますが、その分悪い点もたくさん見えてきます。それをふまえた上で、UDが本当に持つ意味「全ての人間が、特別な意識を持たず、ハッピーで暮らしやすいようにしたもの」を考え直さなければなりません。つまり、一部の人だけが配慮を受けるだけでは、UDとは言えないのです。また、共に利用する側も、思いやりの気持ちを忘れず自然なマナーを心がけるべきです。それらがそろってこそ誰もが望む本物のUDを作り上げていくことが、できるのではないのでしょうか。


優秀賞

「楽ラク物干し竿」

佐賀市立鍋島中学校 1年:山田 千遥

上げ下ろしがボタン 一つで自由自在

楽ラク棒



注意事項

- ①スイッチを入れた後は、必ず「安全カバー」がついていることを確認して下さい。
- ②ぶらさがったりして遊ばないで下さい。

*安全カバーは誤作動防止のため

使い方

とりこみ

- ①左の②～③をします。
- ②洗たく物をとりこみます。

使っている様子

おすすめ

- ①洗たく物を干します。
- ②ボタンについている安全カバーをはずします。
- ③ボタンをおして、好きな高さにあわせます。
(高い低いにも設定できます)
- ④安全カバーをつけます。

こういう人に
オススメ
車イス使用の人
高い所に手が
とどかない人

楽ラク

優秀賞

「なんでももてるくん」

佐賀市立鍋島中学校 2年:伊東 優菜



優秀賞

「ペットボトルホルダー ~ペモ~」

佐賀市立鍋島中学校 2・1年:木下 あゆみ

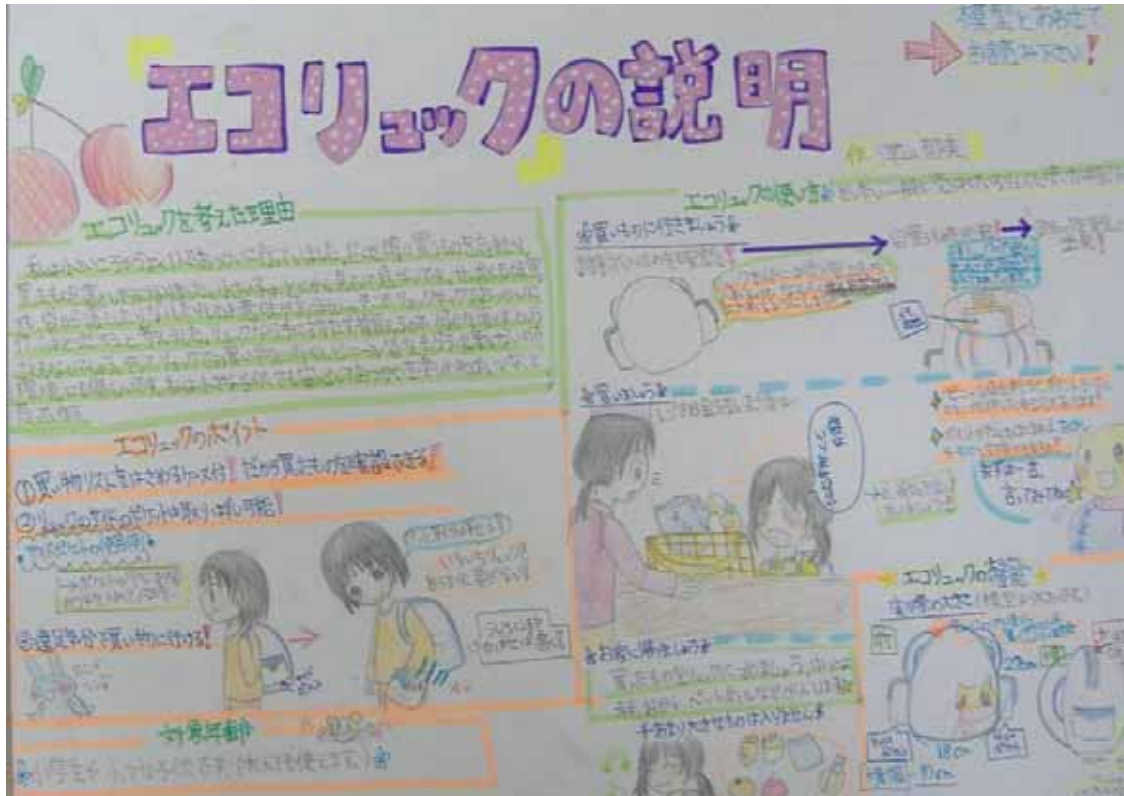
宮木 卓麻



優秀賞

「エコリュック」

佐賀市立鍋島中学校 2年:津山 郁美



優秀賞

「ユニバーサル新聞」

小城市立三日月小学校 5年:石橋 幹太

ユニバーサルデザイン新聞
三日月小
五年 石橋 幹太

UDとはなにか

性別、使えないのあるなしや年齢、誰かができるだけ使いやすいように、はじめから考えた製品や建物、サービスのことです。点字ブロックもUDです。

取材

1月5日ツヤスコに取材に行きました。対応してくれたのは久保田さんです。久保田さんに3つ質問しました。

Q1 ツヤスコにはどんなUDの商品が置いてあるか

「いぼがついていたり、目が見えにくい人でもわかるように、シャンプー(左) リンス(右) プールとリンスがあります。目が見えにくい人でもわかるように、シャンプー(左) リンス(右) プールとリンスがあります。目が見えにくい人でもわかるように、シャンプー(左) リンス(右) プールとリンスがあります。」

Q2 建物にはどんなUDがあるか

「ほかに力がない人でも開きやすいお風呂のふくろ。これはたてからならどこからでも開けるようになります。」

「コーヒーマシンのビンにも、持ちやすいようにくぼみがあります。」

「思いやり駐車スペース。車いすの人が使うときに、歩道のスペースが広くて、入口の近くにある。」

「多目的トイレ。車いすの人が入るとき、また、歩道のスペースが広くて、入口の近くにある。」

感想

8年前にできた店に色々あり、Dがありました。新しい店は、Dがあるそうです。

「目が見えない人や体が不自由な人の買い物の手伝いをする人が4人います。4人とおせんべいの試食を受けています。」

「目が見えない人や体が不自由な人の買い物の手伝いをする人が4人います。4人とおせんべいの試食を受けています。」

優秀賞

「わが家新聞」

小城市立三日月小学校 4年:松尾 知咲













① 段差がない
 ② 手すりがついている
 ③ トイレの電気が自動につく
 ④ ドアが横にあく(引き戸)
 ⑤ トイレにせんめんたいがついている
 ⑥ おふろに手すりがついている
 ⑦ トイレにおりふきがついている
 ⑧ かんきせんがついている
 ⑨ 母室つづきにした
 ⑩ 水せんトイレにした
 ⑪ 電気がつけやすくなった
 ⑫ かいだんのはばが小さい

わが家

新聞

やってみようと思ったとき、かけ
 たいものは4年前にくもまか出地をわきりに父
 さまと母さまの愛、りんごを育てて何となく気がかり
 ました。私には何となく、おんねんはあんなに
 ほんまに、おんねんはあんなに、おんねんはあんなに
 ほんまに、おんねんはあんなに、おんねんはあんなに

松尾 知咲

やってみた感想
 私は自分の家にごん
 ないばいのかうふう
 があたのをこの新聞
 を作てはじめ知り
 ました。やはり、お年
 よりさんがよりつかい
 やすくつくられている
 のかと私は思います。

未来はこう、う町にした、
 私の想ぞうは赤々
 んでもお年よりさ
 んでもつかえるいろ
 いろな道具が未来にあ
 たらいてす、使、やす
 だれでもつかえるよ
 うな便利な道具が
 あたらいてす。

優秀賞 「今、大切な事」

佐賀清和中学校 1年:中島 由貴

私は国語の授業で「ユニバーサルな心を目指して」という勉強をした。その時、班でユニバーサルデザインについていろいろと調べた。みんながよく知っていたのは「プニョプニョピン」や「たまホッチ」など、私たちのよく使う文房具が多かった。

そこで私は、他にどういうものがあるのかと興味をもち、母に聞いてみた。母は、「ユニバーサルデザインかどうかはわからないけれど」と話しはじめた。実は私の母は難病で、雨の日や、冷たい物に長く触れていると関節が動きにくくなる。そんな母が最初に挙げたのは「水道の蛇口」だった。母が言うには昔の蛇口はつかんでひねらなければならなかったが、最近のものは上げ下げ式なので関節が痛くても水仕事がやりやすいのだそうだ。次に挙げたのは「ドアノブ」。これも昔はつかんでひねったり、指をかけて引いたりするものが多かった。しかし、今では押すだけで開閉できるドアや、取手の大きな引き戸など、力の弱い人でも扱いやすいようになっている。

私は母との会話を受けて、他に何かないかなと町中をよく見るようになった。そこで、ここにこそユニバーサルデザインが必要ではないかと思うものがあった。それは誰もが毎日使っている「道」である。私は自転車通学をしているが、歩道と自転車道がいっしょになっている所がある。その道はすごくデコボコしているのだが、前にも増して気になりはじめた。普通にこいでも前のカゴに入れている荷物が飛び跳ねるぐらいだ。こんな道でお年寄りの方や、足の不自由な方は安心して歩けるのだろうか。誰だって整備された道がいいに決まっている。みんなが安心して歩ける道をつくるのも、ユニバーサルデザインなのではないだろうか。

私は、文房具のような小さい道具も必要だと思う。でもそれ以上に、道路のような生活に必要な根本的なものにこそもっと目を向けるべきだと思う。こういう町の中の根本的なものからユニバーサルデザインを意識したものに少しずつ変えていけば、みんなの不安は無くなっていくだろう。そうすれば、障害を持った方であっても、不安なく社会にどんどん出ていけるのではないだろうか。

だからこそ、もっと大きな視点で身の周りを見て、今、必要とされるユニバーサルデザインとは何なのかということ、一人ひとりが考えることが大切であると思う。

優 秀 賞

『ユニバーサルデザイン』について

佐賀清和中学校 2年:上赤 菜都美

現在、神崎に住んでいる私の祖父は障害者です。屋根を修理していて転落したことが原因です。今は下半身が動けなくなってしまいましたが、一生懸命がんばって生活しています。

そんな人々のための工夫を「バリアフリー」とか、「ユニバーサルデザイン」などと呼ばれています。でも本当に障害者が安全に暮らせるような工夫なのでしょうか。佐賀駅で考えてみると、少し使いにくい所もあります。しかし、ある時こんな光景を目にしました。佐賀駅ではエスカレーターは、車いすなどの階段を使えない人々のために、段差を合わせて、車いすの人でも乗れるようにします。私がその時驚いたのは、周りの人々がいやな顔もなく、階段を登っていったことです。私はユニバーサルデザイン以上に感銘を受けました。最近の人は思いやりが足りないと言いますが、ちゃんと思いやりはあるんだとうれしくなりました。

また、私の小学校に少し脳に障害がある子がいました。ちょっといやなことがあったり、気に入らないことがあったりするとすぐにかんしゃくをおこしていました。でもその子はちゃんとみんなのことを理解していたし、みんなもその子のことを理解していると私は思っていました。

「バリアフリー」は、本当に障害者と健常者とのバリアを取り去ったのでしょうか。「ユニバーサル」この言葉は、ただ外面だけの美しい言葉なのでしょうか。健常者は障害者の外面しか見ていないのでしょうか。いいえ、少なくとも私が見た人々は障害者のためにいろんな手助けをしていました。みんな障害者に思いやりを持って接していました。私は相手を「障害者」ではなく、「一人の人間」として接する人が一人でも増えることを願っています。みんな平等だという精神を大切にすべきです。

「ユニバーサル」とは、「だれでも楽しく暮らせる世の中」という意味です。この輪には「平等」という前提があります。すべての人が一人の人間として、他者に思いやりを持って手助けする精神こそがユニバーサルデザインにつながっていくことでしょう。

優秀賞

「『生きる』ユニバーサルデザインへ」

佐賀清和中学校 2年:松野 優子

私は「UD（ユニバーサルデザイン）」という言葉を知り、興味を持っているんなUDを探してみたことがありました。町を歩いていると、けっこういろいろなものが見つかりました。点字ブロックもその時見つけましたが、歩き始めてしばらくして気付きました。また、その他の物もよく注意して見ないと気付かませんでした。それは、UDがもう町に溶け込んでいるからで、多く普及しているということにもなります。しかし私は、その分UDの持つ本当の意味が忘れられかけているのではないか、と思いました。

例えば点字ブロック。駅のホームなど、町のいたるところで見られます。が、実際歩いている時や電車を待っている時に、「これは視覚障害者の方々のためにあるのだ。」と思ったことはありませんでした。知ってはいましたが、その時その場で、「ではここに立ってはいけないな。」と考えたことはあまりありませんでした。実際私は、点字ブロックの上に自転車を置いたこともあるだろうし、その上に立ったこともあります。それが視覚障害者の方々にとってどれだけ困ることであったか、そのちょっとした行為がもしかしたら人命に関わる大事故になったかもしれないと思うと、本当に怖いです。

そんなふうに考え始めたのは、小学校六年生の時でした。それからは、点字ブロックのみならず、いろんなことを気にかけるようにしています。点字ブロックの上に物を置くなんてことは、もうしていません。

しかし、やはりどこかで、障害者や高齢者の方々が困られるようなことを、まだ私はしているかもしれないのです。それは、ちまたにあふれるUDが、何のためにあるのかを知るチャンスがほとんどないからです。私はたまたま興味を持って調べてみただけであって、調べる前にUDのことを知るチャンスというのはありませんでした。ましてや知ることも調べることもなく、UDの意味を本当に理解するチャンスが全くなかった人も多くいるでしょう。そういう人が、障害者や高齢者の方々が危険にさらされてしまうような行為を知らず知らずのうちにしているのです。

UDは、せっかくあっても、みんながその存在や使い道を知らなければ意味がありません。障害者や高齢者の方々は、それを頼りに生きていらっしゃるのですから、私たちがそれを妨げてはいけません。みんながUDの意味を知るチャンスを、もっとつくらなければなりません。

そういうチャンスをたくさん大人がつくることで、本当にユニバーサルデザインが活きてきて、だれもが生活しやすい社会になるのではないのでしょうか。